

第2回 福岡空港調査連絡調整会議

配付資料一覧

次第

配席図

出席者名簿

資料 1

「福岡空港の総合的な調査に係る情報提供及び意見収集のあり方」の検討にあたっての基本的な考え方（案）

資料 2

「福岡空港の総合的な調査に係る情報提供及び意見収集のあり方」検討スケジュール（案）

資料 3

「福岡空港の総合的な調査に係る情報提供及び意見収集のあり方」の検討にあたっての基本的な考え方（案）についてのご意見の募集（案）

資料 4

福岡空港の総合的な調査 平成16年度の調査の方向性（案）

資料 5

福岡空港調査委員会の設立

第2回福岡空港調査連絡調整会議 次 第

日時 平成15年11月10日(月)
13:45~15:00
場所 福岡国際会議場
5階 502会議室

1. 開会

2. 議事

(1) 福岡空港の総合的な調査に係る情報提供及び意見収集のあり方について

「福岡空港の総合的な調査に係る情報提供及び意見収集のあり方」
の検討にあたっての基本的な考え方(案)

「福岡空港の総合的な調査に係る情報提供及び意見収集のあり方」
検討スケジュール(案)

「福岡空港の総合的な調査に係る情報提供及び意見収集のあり方」
の検討にあたっての基本的な考え方(案)についてのご意見の募集(案)

(2) 福岡空港の総合的な調査について

平成16年度の調査の方向性(案)

(3) その他

3. 閉会

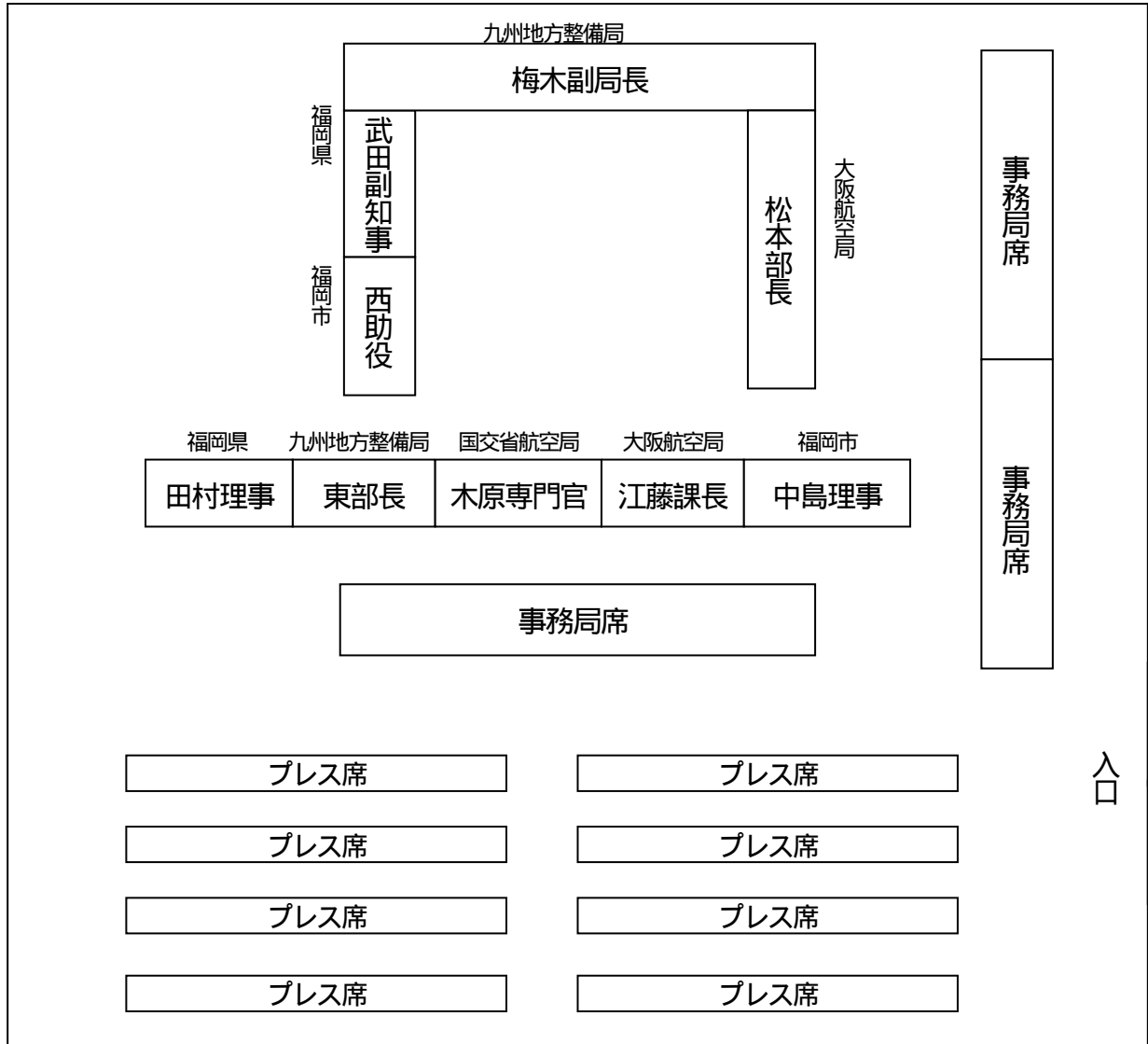
第2回福岡空港調査連絡調整会議 配席図

日時 平成15年11月10日(月)

13:45~15:00

場所 福岡国際会議場

5階 502会議室



第2回福岡空港調査連絡調整会議 出席者名簿

・構成員

国土交通省九州地方整備局長	わたなべ 渡邊	しげき 茂樹
(代理出席 九州地方整備局副局長	うめき 梅木	ゆうじ 勇二)
国土交通省大阪航空局長	いわみ 岩見	よしはる 宣治
(代理出席 国土交通省大阪航空局飛行場部長	まつもと 松本	せいじ 清次)
福岡県副知事	たけだ 武田	ふみお 文男
福岡市助役	にし 西	けんいちろう 憲一郎

・幹事

国土交通省九州地方整備局港湾空港部長	あずま 東	としお 俊夫
国土交通省大阪航空局飛行場部長	まつもと 松本	せいじ 清次
福岡県企画振興部理事	たむら 田村	あきひこ 明比古
福岡市総務企画局理事	なかしま 中島	つぎお 紹男

・国土交通省飛行場部航空局からの参加

国土交通省航空局飛行場部計画課専門官	きはら 木原	まさとも 正智
--------------------	-----------	------------

「福岡空港の総合的な調査に係る情報提供及び意見収集
のあり方」の検討にあたっての基本的な考え方（案）

平成 1 5 年 1 1 月 1 0 日

福岡空港の総合的な調査に係る
情報提供及び意見収集のあり方検討会

目 次

1 . 検討の主旨P 1
2 . 検討にあたっての問題認識P 2
3 . 検討の対象範囲P 3
4 . 検討の基本方針P 4
5 . 今後検討を深めるべき課題	
(1) 検討の進め方の明確化と P I プロセスの共有等P 5
(2) P I に係る実施体制と役割の明確化P 6
(3) 適切な市民等参加手法 (P I 手法) の実施P 7
6 . 平成 1 5 年度調査における情報提供等のあり方P 8

1 検討の主旨

福岡空港については、昨年12月に、国土交通省交通政策審議会航空分科会の答申において、「既存ストックの有効活用方策」、「近隣空港との連携方策」、「中長期的な観点からの新空港、滑走路増設等を含めた抜本的な空港能力向上方策」等について、幅広い合意形成を図りつつ、国と地域が連携し、総合的な調査を進める必要があると位置づけられたところである。

今後、総合的な調査を実施し、検討を進めていくにあたっては、福岡空港の国、地域及び市民生活に果たす役割の大きさにかんがみ、市民等（空港利用者、一般市民等）に対し積極的に情報を提供するとともに、幅広い意見を収集・反映していくなど、透明性を確保し、共通の認識のもと、進めていくことが極めて重要である。

このため、当検討会では、今年度において、以下に示すような基本的な考え方に基づき「福岡空港の総合的な調査に係る情報提供及び意見収集のあり方」の検討を行うものである。なお、併せて、今年度実施される調査に係る情報提供等について基本的な考え方を示すこととする。

2 検討にあたっての問題認識

福岡空港は、年間約二千万人が利用するなど、国内外との交流拠点として重要な役割を果たしている。また、地域の社会、経済、学術、文化等多方面にわたり大きく貢献している。このような福岡空港の社会、経済的役割の重要性、地域の将来との関わりの深さ、影響範囲の大きさ・多面性などにかんがみ、総合的な調査を実施するにあたっては、市民等と認識を共有しつつ進めていくことが必要である。

福岡空港の課題への対応策については、これまで地域においても調査検討が行われてきた。その過程を現時点で振り返ってみると、上に述べたような市民等との認識の共有が十分になされてきたかどうかについては、議論の余地のあるところである。

最近、公共事業全般に透明性の確保、説明責任の遂行が求められるようになってきており、国土交通省においては、住民参加に関して、構想段階を対象に「国土交通省所管の公共事業の構想段階における住民参加手続きガイドライン」が公表されている。また、同省航空局においても、「一般空港における新たな空港整備プロセスのあり方(案)」の中で、構想・計画段階を対象に、パブリック・インボルブメント・ガイドライン案が策定され、試行されているところである。(9ページ参考資料参照)

このような問題認識のもとに、福岡空港については、構想段階以前の「調査段階」であるものの、航空局のガイドラインの主旨、考え方を先取りし、調査の早い段階からパブリック・インボルブメント(PI)の手法を取り入れながら、情報提供及び意見収集を実施していくことが必要である。

3 . 検討の対象範囲

ここでの検討対象は、「一般空港における新たな空港整備プロセスのあり方(案)」の中で定義された調査段階における情報提供及び意見収集のあり方である。

福岡空港における調査段階とは、福岡空港の抱える課題について幅広い視点から検討し、「滑走路を増設しない場合の現空港の有効活用方策」、「近隣空港との連携方策」、「滑走路増設による抜本的な空港能力向上方策」、「新空港による抜本的空港能力向上策」などの調査を通じて、考えられる様々な対応方策の中から今後講ずべき施策の組合せ等の選択肢を示し、市民等の意見を収集、反映しながら、方向性(案)を作成していく段階である。

4 . 検討の基本方針

今年度から開始される福岡空港に係る総合的な調査は、福岡空港が抱える課題の解決に向けた出発点となるものである。

したがって、調査によって、国にとっても、地域にとっても最善の方策を得るためには、一連の調査の当初から、透明で公正なプロセスにより情報提供及び意見収集を行い、市民等との信頼関係を築きながら、進めていくことが必要である。

このため、以下の3点を基本方針とする。

情報公開にとどまらない積極的な情報提供の実施。

市民等のニーズ、意見を収集し、適切に反映できる手法の導入。

市民等との多重多層のコミュニケーションに基づき、市民等に開かれた進め方での調査検討の実施。

5 . 今後検討を深めるべき課題

前述の基本方針に基づき検討を深めていく際には、以下の3点が重要な検討課題となるものと考えられる。

検討の進め方の明確化とP Iプロセスの共有等
P Iに係る実施体制と役割の明確化
適切な市民等参加手法（P I手法）の実施

なお、情報提供のあり方についても今後検討を深めていくこととするが、平成15年度調査に係るあり方については、この基本的な考え方の中で示す（後述8ページ）こととする。

(1) 検討の進め方の明確化と P I プロセスの共有等

調査段階全体の進め方の枠組み(全体プロセス)を明確にすべきではないか。

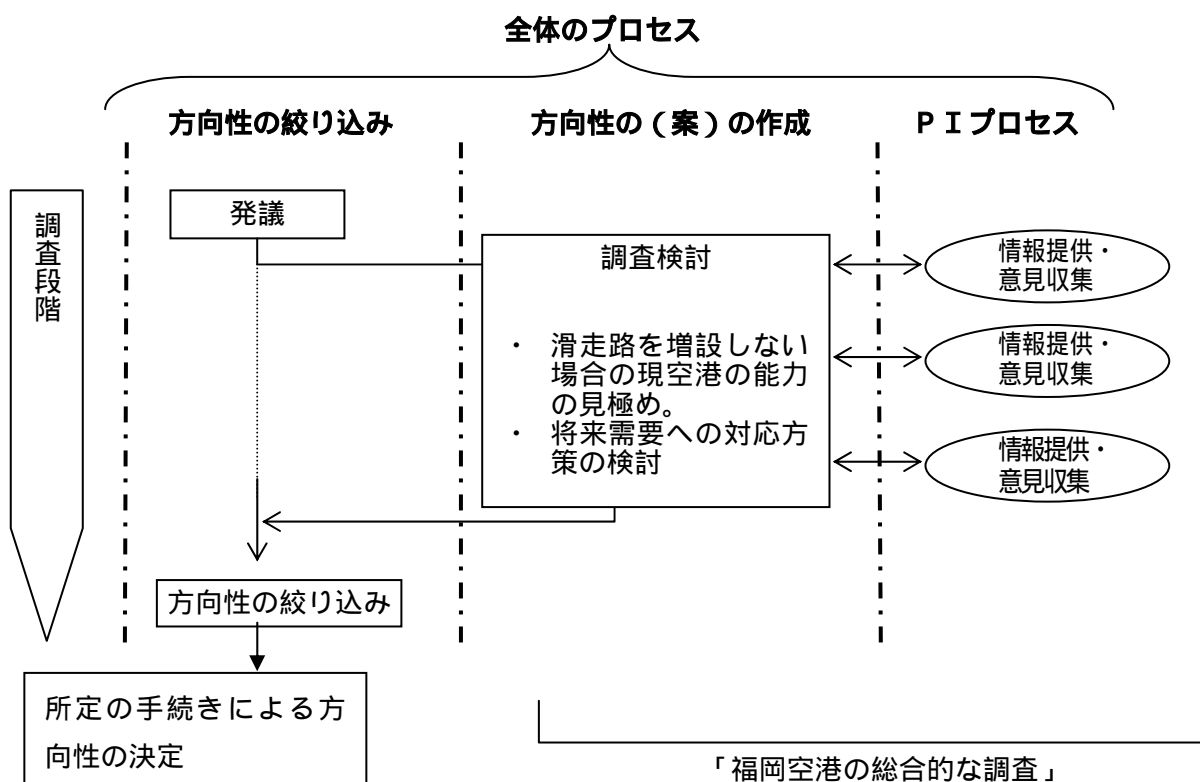
その中で今回検討する P I プロセス自体について、市民等からの意見を反映させながら決定することが必要ではないか。

決定した P I プロセスは、広く市民等に公表し、理解を得、認識を共有することが必要ではないか。

P I の実施にあたっては、現状認識など基本的なところから、情報提供及び意見収集を実施し、認識を共有しながら、段階的に進めていくことが必要ではないか。

P I プロセスにおける情報提供、意見収集の方法等については、状況に応じて見直すなど、柔軟に対応することが必要ではないか。

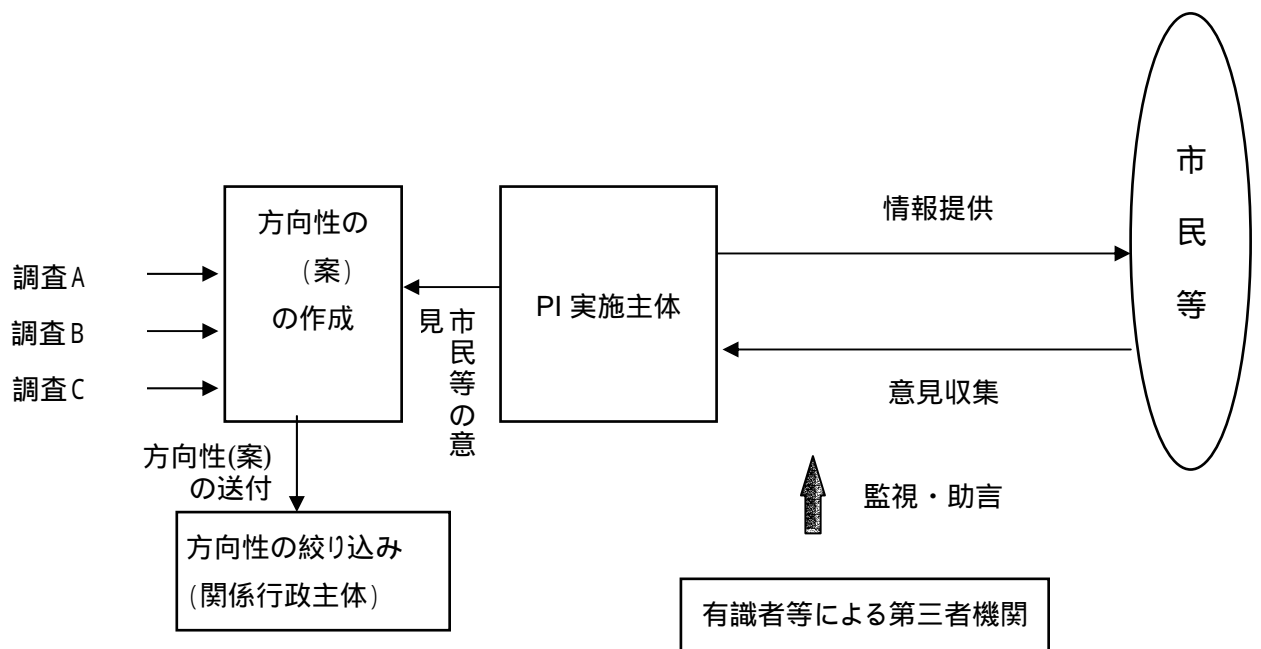
図 調査段階における全体プロセスの概念(例)



(2) P I に係る実施体制と役割の明確化

P I プロセスを進めるにあたって、だれがどのような役割と責任を担うのか市民等から見て解りやすく明確化することが必要ではないか。

体制イメージ (例)



(P I プロセスの監視等の例)

有識者等による第三者機関 (有識者委員会、アドバイザリーチーム等)
... P I プロセスが適正に行われているか、意見集約が適切に行われているか等について監視し、実施主体に必要な助言を行う機関

(3) 適切な市民等参加手法 (P I 手法) の実施

空港利用者や一般市民など幅広い主体について、それぞれの特性を考慮した適切な参加手法を検討することが必要ではないか。多様な手法を組合せ、効果的な P I 活動を実施し、幅広い意見の収集に努めることが必要ではないか。

市民等参加の主な手法例

パブリックコメント

行政機関が政策の立案等を行う際に、その案を公表し、案に対して広く市民等・事業者等から意見や情報を提出してもらう機会を設け、行政機関は、提出された意見等を考慮、反映して案を策定したり、意思決定を行なうもの。

協議会 (市民参加型)

行政機関が政策の立案等を行う際に、案に対して広く意見や情報を提出してもらうために設置する、市民や専門家、事業者等から構成される会議。

オープンハウス

事業等に関する検討の内容や今後の進め方等の情報を、駅のコンコースや公共施設のロビーなど市民が気軽に訪れることができる場所で、一定期間パネル等を用いて提供し、意見収集や意見交換を行う場。

ワークショップ

計画等の内容に対して、行政機関と市民等が、現地調査や見学、作画・工作なども交えながら、協働で提案や計画をつくりあげるための場。

説明会

計画等の進め方や目的などを、実施主体の関係者から、集まった市民等を対象として説明を行う場。

シンポジウム

計画等の進め方や目的などについて、関連の基調講演や数名のパネリストとの対話を通じて市民等の理解を深めてもらう場。

意見受付窓口

市民等からの意見を、市民等が利用しやすい形態 (例えばメール、F A X、電話、等) で常時受け付けるための窓口。

アンケート

市民等が日常生活で抱えている印象や考え方等について統計的手法を用いて調査する手法。

6 . 平成 1 5 年度調査における情報提供等のあり方

福岡空港に係る総合的な調査については、平成 1 5 年度から実施されることから、その情報提供、意見収集のあり方について、基本的な考え方を示すこととする。

対象 : 国、地域が実施する調査等

情報提供、意見収集の方法

調査の開始にあたり、その調査の内容等について公表することが必要である。

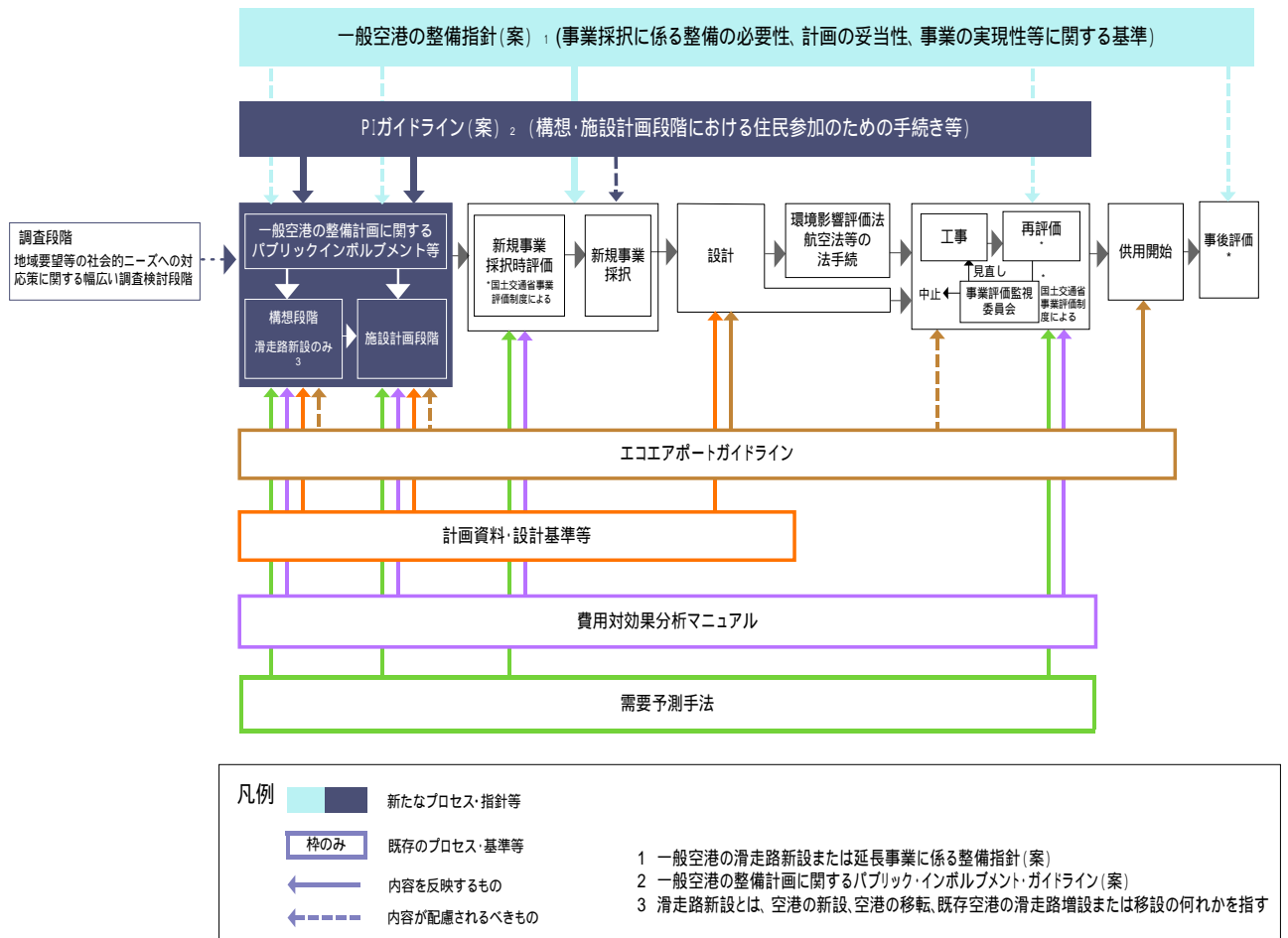
1 5 年度調査終了時における成果については、中間的な成果であることを明確にした上で、情報提供、意見収集を行うことが必要である。

- 希望する人が情報を容易に入手することができるような措置の検討。
- ホームページ等を活用した市民等意見の常時受付などの検討。

調査のために開催される委員会等については、原則として報道機関に公開し、資料、議事録についてもできる限り情報提供することが必要である。

平成 1 6 年度以降に実施する情報提供及び意見収集のあり方については、当検討会での議論、市民等からの意見などを踏まえて、改めて最終報告でとりまとめる。

図 新たな空港整備プロセス



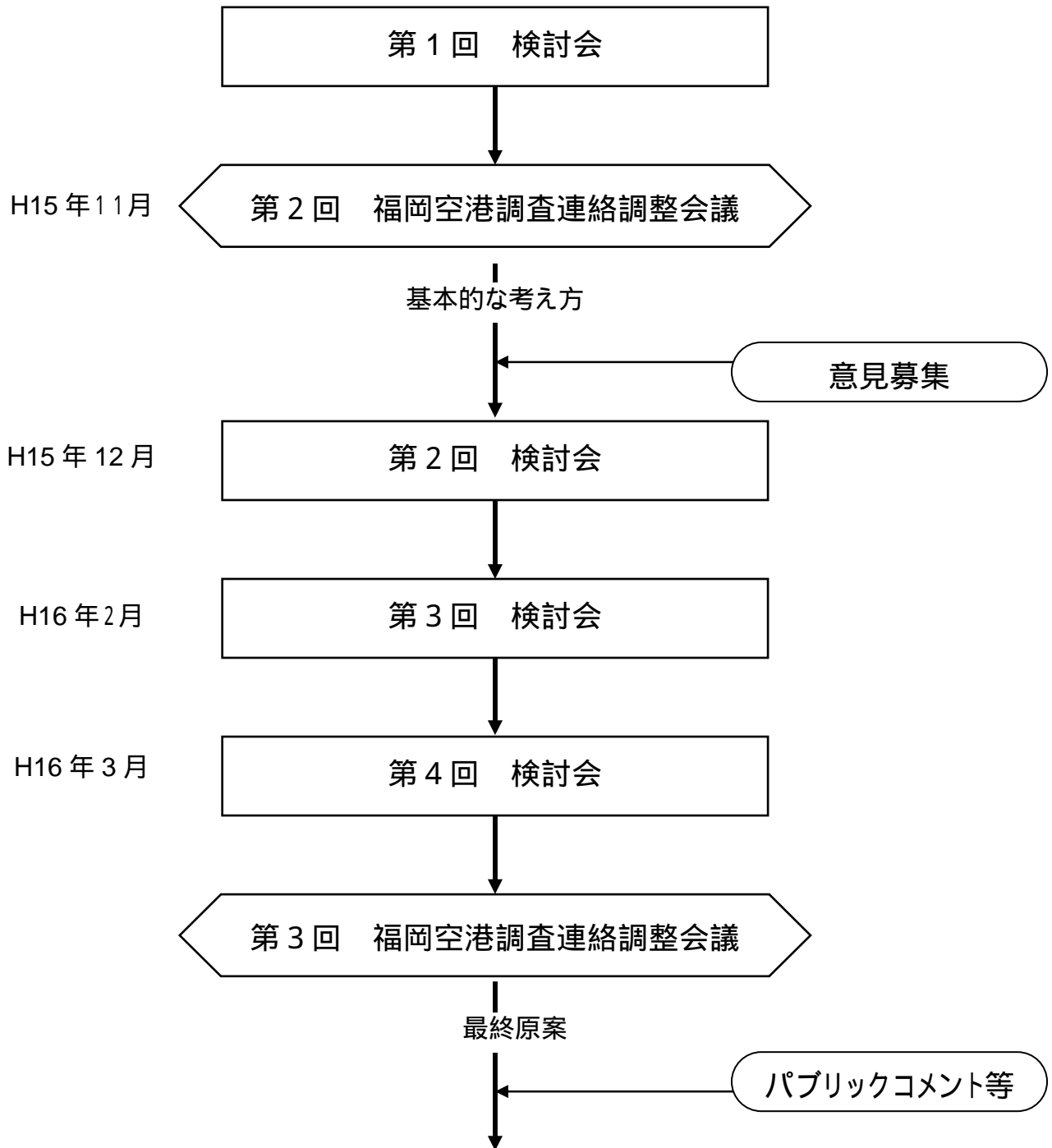
出典：「一般空港における新たな空港整備プロセスのあり方(案)」(平成15年4月/国土交通省航空局)より

「福岡空港の総合的な調査に係る情報提供及び意見収集
のあり方検討会」 委員名簿

50音順、敬称略

氏 名	所 属
(座長) 石田 東生	筑波大学 社会工学系 教授
上山 信一	慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 教授
城山 英明	東京大学法学部・大学院法学政治学研究科 助教授
屋井 鉄雄	東京工業大学 大学院総合理工学研究科 人間環境システム専攻 教授
山本 智子	弁護士

「福岡空港の総合的な調査に係る情報提供及び意見収集のあり方」
検討スケジュール（案）



「福岡空港の総合的な調査に係る情報提供及び意見収集のあり方」成案

「福岡空港の総合的な調査に係る情報提供及び意見収集のあり方」
の検討にあたっての基本的な考え方（案）についてのご意見の募集（案）

平成15年11月 日
福岡空港調査連絡調整会議

<問い合わせ先>
福岡県企画振興部空港対策局空港計画課
092-643-3216
福岡市総務企画局（空港推進担当）
092-711-4093

国及び福岡県、福岡市が連携して実施する福岡空港に係る総合的な調査については、透明性、中立・公正性を確保し、また、県民、市民、利用者等関係者のご意見を反映しながら、進めていくこととしています。そのため、住民参加の手続きであるパブリック・インボルブメントの手法を取り入れた「福岡空港の総合的な調査に係る情報提供及び意見収集のあり方」をとりまとめることとしています。

この度、その基本となる考え方、検討課題等をまとめた「検討にあたっての基本的な考え方」を作成いたしました。つきましては、本年度末にとりまとめる予定の「福岡空港の総合的な調査に係る情報提供及び意見収集のあり方」の最終報告案に反映していくため、広く皆様からのご意見を募集しております。

募集対象 「福岡空港の総合的な調査に係る情報提供及び意見収集のあり方」
の検討にあたっての基本的な考え方（別添参照）

「検討にあたっての基本的な考え方」の公開と入手の方法

1 ホームページでの公開

九州地方整備局のホームページ

<http://www.qsr.mlit.go.jp>

トップページ・新着情報

<http://www.pa.qsr.mlit.go.jp>（港湾空港部）

トップページ・最新情報

大阪航空局のホームページ

<http://www.ocab.mlit.go.jp>

トップページ 最新情報

福岡県のホームページ

<http://www.pref.fukuoka.jp>

トップページ・「住まいと交通」の道路・交通

「福岡空港調査連絡調整会議」

福岡市のホームページ

<http://www.city.fukuoka.jp>

トップページ・都市機能

「福岡空港調査連絡調整会議について」

- 2 窓口等での配付
- ・福岡県及び福岡市の各情報提供窓口（別添参照）
 - ・福岡県企画振興部空港対策局空港計画課
福岡市博多区東公園 7 - 7 092-643-3216
 - ・福岡市総務企画局（空港推進担当）
福岡市中央区天神 1 - 8 - 1 092-711-4093

ご意見の提出方法

お名前、ご住所、ご職業を明記の上、ご意見とその理由を記載して、いずれかの方法で提出下さい。様式は任意です。

1 電子メールの場合

- 電子メールアドレス：・(福岡県企画振興部空港対策局空港計画課)
kuko2@pref.fukuoka.lg.jp
広報班 宛
- ・(福岡市総務企画局（空港推進担当）)
kukosuishin.GAPB@city.fukuoka.jp
空港推進担当 宛

2 F A Xの場合

- F A X 番号：・(福岡県) 092-643-3217
福岡県企画振興部空港対策局空港計画課
広報班 宛
- ・(福岡市) 092-733-5582
福岡市総務企画局
空港推進担当 宛

3 郵送の場合

- (福岡県) 〒 812-8577 福岡市博多区東公園 7 - 7
福岡県企画振興部空港対策局空港計画課
広報班 宛
- (福岡市) 〒 810-8620 福岡市中央区天神 1 - 8 - 1
福岡市総務企画局
空港推進担当 宛

注意事項

- ・年度末の原案作成の際に、いただいたご意見の取扱いについて取りまとめた上で、公表を予定しております。そのため、いただいたご意見について、氏名、住所、電話番号、電子メールアドレス等個人が特定できる内容を除いて公開されることを予めご承知おき下さい。
- ・なお、個別のご意見への回答はいたしかねますので予めご了承下さい。

福岡空港の総合的な調査 平成16年度の調査の方向性（案）

平成16年度の調査については、以下に示す方向性で検討を進め、今年度末に15年度の調査結果と16年度予算の状況等を踏まえて、調査の実施計画を作成する。

（1）滑走路増設をしない場合の現空港の能力の見極め

航空利用者の視点に立った航空サービスの評価基準の検討

福岡空港の空港能力の見極めを行うため、平成15年度に整理した空港能力の考え方や具体的な指標に沿って、航空サービス及び利用者ニーズの現状を把握するとともに、航空利用者の視点に立って空港能力を評価する手法の検討を行う。

- ・航空サービスの現状及び利用者ニーズの把握（地域）
- ・航空サービスに係る指標及び評価方法の検討（国）

現空港の有効活用方策の検討

現空港を最大限に活用するため、平成15年度に抽出される予定の空港能力を制約する課題の対応方策および空港利用向上方策についての検討結果を踏まえて、具体的な有効活用方策の検討を行う。

- ・空港能力を制約する課題への対応方策の検討（国・地域）
- ・空港利用向上方策の検討（国）

（2）将来需要への対応方策の検討

地域から見た福岡空港の役割と効果に関する検討

平成15年度に引き続き、福岡空港の社会経済的な効果や役割等について整理するとともに、主要地域拠点空港の役割を検討するほか、新たに国内外の社会経済情勢の変化に対して地域をとりまく課題を踏まえ、福岡空港の将来像を検討する。

- ・福岡空港の利用特性の把握（地域）
- ・主要地域拠点空港の役割と効果の検討（国）
- ・空港の社会経済的役割と効果及び将来像の検討（地域）

将来の航空需要の予測

航空利用者等の現状・動向等の地域特性を踏まえ、きめ細かい航空需要の分析を行うための手法の開発を行う。

- ・航空利用者等の現状・動向等地域特性の整理（地域）
- ・地域特性等を考慮した航空需要予測手法の開発（国）

福岡空港の総合的な調査(案)

区分	国	地域
滑走路増設をしない場合の現空港の能力の見極め	航空利用者の視点に立った航空サービスの評価基準の検討	
	<ul style="list-style-type: none"> ・空港能力の考え方の整理 ・航空サービスに係る指標及び評価方法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・航空サービスの現状及び利用者ニーズの把握()
	現空港の有効活用方策の検討	
将来需要への対応方策の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡空港の需要分析と利用向上方策の抽出 ・現空港の運用実態分析と課題の抽出 ・現空港の有効活用方策の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡空港の航空需要の特性把握(を活用) ・現空港の有効活用方策の検討
	空港能力の見極め	
	<ul style="list-style-type: none"> ・航空サービスの評価基準による現空港の空港能力の評価と見極め 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価のための基礎調査(の再整理)
	地域から見た福岡空港の役割と効果に関する検討	
	<ul style="list-style-type: none"> ・主要地域拠点空港の役割と効果の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・航空の利用特性の把握() ・空港の社会経済的役割と効果及び将来像の検討
将来の航空需要の予測		
<ul style="list-style-type: none"> ・航空需要の分析 ・地域特性等を考慮した航空需要予測手法の開発と実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・航空利用者等の現状・動向等地域特性の整理(を活用) 	
近隣空港との連携方策の検討		
<ul style="list-style-type: none"> ・近隣空港との連携に向けた基本的枠組みの検討 ・近隣空港との連携方策の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・空港連携に関する事例等の収集・整理 ・近隣空港との連携方策の検討 	
現空港における滑走路増設の検討		
<ul style="list-style-type: none"> ・滑走路増設に係る空港の計画要件の検討 ・現空港における滑走路増設の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・滑走路増設の資料収集・整理 ・滑走路増設に伴う影響と効果の検討 	
新空港の検討		
<ul style="list-style-type: none"> ・空港の計画要件の検討 ・新空港の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・空港立地の考え方の整理 ・新空港に係る基礎検討 ・現空港用地の開発計画の検討 	
とりまとめ		

福岡空港調査委員会の設立

1 設立の趣旨

国の審議会答申を受け、将来的に需給が逼迫する等の事態が予想される福岡空港の総合的な調査を国と地域が連携して進めるに当たり、地域が担う調査について、福岡県・福岡市の役割が不可分であり、また幅広い知見や専門的知識を要することから、学識経験者等による「福岡空港調査委員会」を県市共同で設置し、調査研究を行う。

2 事業

地域が担う調査の実施、報告及び調査内容の情報提供等。

3 組織構成

1) 委員会

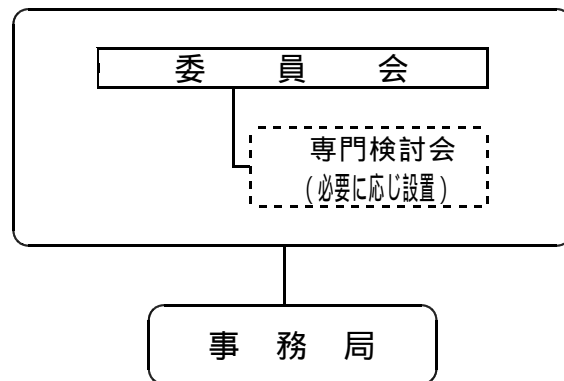
交通経済、交通計画、地域計画、国際交流、環境等幅広い分野の学識経験者等、11名で構成。

必要に応じ専門検討会を設置。

2) 事務局

福岡県・福岡市の派遣職員で構成。

3) 組織のイメージ図



4 設立年月日

平成15年11月13日

* ホテルオークラ福岡にて、10時30分より(予定)

これに伴い、新福岡空港調査会は解散。

別表

福岡空港調査委員会 委員

(五十音順)

浅野 直人

福岡大学法学部教授

大島 慎子

トライメディア(株) マネージングディレクター

川勝 平太

国際日本文化研究センター教授

杉浦 一機

航空アナリスト

杉岡 洋一

九州労災病院院長

樗木 武

九州大学名誉教授

兵藤 哲朗

東京海洋大学海洋工学部助教授

松岡 恭子

建築家

マリ クリスティーヌ

異文化コミュニケーター(国連八ビタット親善大使)

矢田 俊文

九州大学大学院経済学研究院長

山内 弘隆

一橋大学商学部教授